



2026年9月1日

各 位

会社名 株式会社アクセルスペースホールディングス
代表者名 代表取締役 中村 友哉
(コード番号：402A 東証グロース市場)
問合せ先 取締役 折原 大吾
(TEL. 03-6262-6105)

**2026年5月期 通期決算説明会及び決算発表後に
投資家の皆さまより寄せられたご質問及び回答内容公開のお知らせ**

平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

投資家の皆さまよりお寄せいただいた多数のご質問につきまして、当社の方針に基づく回答を以下のとおり公開いたします。ご質問の時点と回答内容に若干の差異が生じる場合がございますが、情報発信の透明性向上およびフェア・ディスクロージャーの観点から、今後も継続的な情報公開を行ってまいります。

なお、当社では決算情報の漏洩防止および情報の公平性確保を目的として、各四半期決算期末日の翌日から決算発表日までの期間を「沈黙期間」と定めております。この期間中は、決算に関するご質問の回答やコメントを控えさせていただきますので、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

ただし、沈黙期間中であっても、投資判断に影響を及ぼす重要事象が発生または決定された場合には、適時開示規則に則り、公平かつ迅速に情報開示を行ってまいります。

【注意事項】

当社ウェブサイト等を通じていただいたご質問には順次ご回答しておりますが、以下に該当する投稿につきましては、誠に恐縮ながら回答を差し控えさせていただきます。あらかじめご了承ください。

・非公開情報に関するお問い合わせ

例：足元の業績動向、将来の開示内容・開示予定、個別の商談状況、展示会の出展予定、公募案件への応募状況、各衛星の稼働状況、公表前の人工衛星及びロケットの打上げ日時、衛星の開発・製造状況など

- ・金融商品取引法 第166条「重要事実」に該当する可能性のあるお問い合わせ
- ・株価動向等株式市場の値動に関するお問い合わせ
- ・誹謗中傷が含まれるお問い合わせ
- ・ご意見やご感想

当社からご提供する回答内容につきましては、当社の許可なく、その一部または全部を転用・二次利用し、お問い合わせいただいたご本人以外に開示することは、固くお断りいたします。

【ご質問及び回答内容】

1. 事業に関するご質問

Q1 「GRUS-3」は打上げ後、順調に運用されていますか。また、商用運用はいつから開始する予定ですか。

A1 「GRUS-3」については、2026年7月7日の打上げ後、7機すべての衛星から地上への最初の電波（ファーストボイス）を受信しました。その後、7月10日に電力発生、通信の確立、姿勢制御など、軌道上での衛星の健全性を確認するクリティカル運用を正常に完了し、7月17日には初めて撮影した画像（ファーストライト）を公開しました。現在は、2026年中の商用運用開始に向け、軌道制御、動作確認、システム総合試験などの初期運用を進めております。

ご参考：当社開示資料

次世代地球観測衛星「GRUS-3」7機の打ち上げおよび電波受信成功

https://www.axelspace.com/ja/news/grus-3_successful_launch/

次世代地球観測衛星「GRUS-3」クリティカル運用を正常に完了

https://www.axelspace.com/ja/news/grus-3_criticaloperation/

次世代地球観測衛星「GRUS-3」の初撮影画像を公開

https://www.axelspace.com/ja/news/grus-3_firstimages/

Q2 「GRUS-3」は主に防衛省の「衛星コンステレーションの整備・運営等事業」向けに使用するのでしょうか。

A2 当社の光学衛星は、政府・民間双方の幅広い用途で活用することを想定しています。「GRUS-3」についても、商用運用開始後は国内外の民間企業や政府系機関など、幅広い顧客へのサービス提供を目指して営業活動を進めていく方針です。

Q3 打上げ時期が未定となっている18機の衛星は、一度に製造・打上げを行うのでしょうか。

A3 2026年5月期通期決算発表にて、当社の5年後に目指す姿として2031年5月期末までの自社衛星コンステレーション機数を30機と目標にしており、すでに発表している中分解能衛星「GRUS-3」7機及び高分解能衛星5機の打上げを発表しております。発表済みの12機を除く18機については、一度に製造・打上げする計画ではありません。今後の事業の進捗や市場の需要動向等を踏まえながら、段階的に製造・打上げを行う計画です。

ご参考：当社開示資料

2026年5月期 通期決算補足説明資料 17ページ

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/402A/tdnet/2851663/00.pdf>

Axelmer

AxelGlobe

衛星コンステレーションの増強による事業基盤の強化:目標運用機数

グローバルでの地球観測サービスの提供能力拡大に向けて、

2031年5月期末までに中分解能・高分解能で30機程度のコンステレーション運用を目指す

<発表済みのコンステレーション整備計画^{*1}>

	衛星名	機数	打上げ時期	商用運用開始	2026年5月期	2027年5月期	2028年5月期	2029年5月期	2030年5月期	2031年5月期
中分解能	GRUS-1 (A)	1機	2018年12月	2019年1月	運用					
	GRUS-1 (BCDE)	4機	2021年3月	2021年6月	運用					
	GRUS-3 (ABCDEFGH)	7機	2026年7月	2026年中		運用				
高分解能	高分解能衛星	3機	2028年5月期	未定			運用			
	高分解能衛星	2機	2029年5月期	未定				運用		
	中・高分解能衛星	18機	未定	未定					運用	

注：上記のスケジュールは、事業が順調に推移した場合の計画であり、実際の打上げスケジュールとは大きく異なる可能性があります。また、上記の打上げスケジュールが将来実現することを保証するものではありません。
*1：自社コンステレーション衛星の設計寿命は5年を想定しております。

Q4 Axelliner Laboratoryはどのようなビジネスモデルですか。複数の顧客が相乗りするとのことですが、満載にならないと利益が出ないのでしょうか。

A4 Axelliner Laboratoryは、当社の汎用バスシステムに複数の顧客のコンポーネント等を搭載し、専有もしくは相乗りによって軌道上実証の機会を提供するサービスです。当社では、一定の積載率で適正な粗利益を確保できるようなビジネスモデルにしています。今後は、2030年5月期までに年4回の定期便化を実現できる体制を整備し、あらかじめ打上げスロットを確保したうえで、複数の顧客による相乗り機会を柔軟に調整することで、収益の安定化を目指します。

ご参考：当社開示資料

2026年5月期 通期決算補足説明資料 21-22ページ

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/402A/tdnet/2851663/00.pdf>

Axelliner

AxelGlobe

軌道上実証サービスの事業基盤確立：Axelliner Laboratoryの事業進捗

2024年7月のサービス発表以来、これまでに軌道上実証の契約を3件締結。

当社の軌道上実証サービスの特徴

- ・ 独自の汎用小型衛星バスにてミッション搭載部分の区画を販売
- ・ 複数のミッションを搭載する相乗りが可能。技術検証から事業化でのリードタイムの短縮に貢献
- ・ 顧客は実証したいコンポーネントに応じて、1機占有も選択可能



サービス提供イメージ
(下部の区画のように顧客には必要なだけのスペースを提供)

汎用小型衛星バス：NASAヘレポートへの掲載

- ・ ペイロードの搭載が可能な衛星を、開発から打上げ、運用までワンストップサービスとして提供する「ホステッド・ペイロード サービス(Hosted Orbital Service)」のカテゴリーにおいて、2022年版から3回連続で掲載
- ・ 2026年版ではロケットの副衛星(セカンダリペイロード)として打上げられることを前提に設計された衛星バスシステムの提供事業者として、日本企業として唯一掲載

出所：NASA「State-of-the-Art of Small Spacecraft Technology」(2026年3月)

<契約締結済みのプロジェクトと実証予定>

顧客名		実証時期	実証内容
民間企業	シナノケンシ社	2026年	リアクションホイール
民間企業	Pale Blue社	2027年	小型ホールスラスタ「PBH-100」
政府系機関	JAXA	未定(プロジェクト期間は2026年度より4年程度)	宇宙機用高機動型電気推進の基礎研究

AXELSPACE 21

Axelliner

AxelGlobe

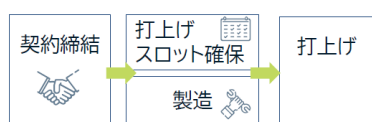
軌道上実証サービス「Axelliner Laboratory」の事業基盤確立

2030年5月期までに年4回の定期便化を実現できる体制を整備。顧客の受注ごとの衛星開発から、相乗りによって適切なタイミングで、より低価格でのサービス提供ができるように、当社があらかじめ定期的な実証機会を先行して確保する

これまで

- ・ 案件ごとに受注し、製造を開始。工事進行基準で売上を計上。案件の進捗に応じるため、収益のボラティリティが発生
- ・ 受注後に打上げスロット手配を行うため、実証ニーズによっては、実証までのリードタイムが合わず獲得できなかった事例が存在

<現在のAL Labの受注から打上げまでの流れ>

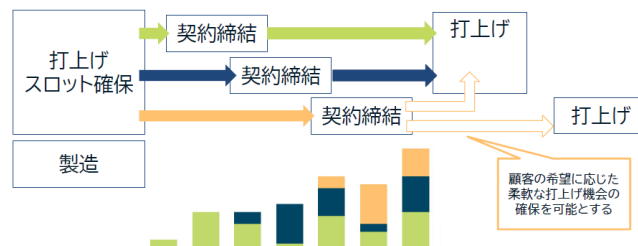


打上げスロットが混み合っていた場合、スロット確保までに時間がかかる可能性が存在

定期便化が実現した際の収益のイメージ

- ・ 受注前に打上げスロットを手配し、衛星バスの製造を開始
- ・ 軌道上実証を実施したい顧客に対し、タイムリーな打上げ機会の提案を可能にする
- ・ あわせて、相乗り機会を柔軟に調整
- ・ 確保したスロットの稼働率に応じて、収益が安定するビジネスモデルとすることで、収益の安定化を目指す

<定期便化を実現した際の流れと収益のイメージ>



AXELSPACE 22

Q5 「GRUS-1E」の商用運用終了が発表されましたが、不具合の原因は何ですか。他の衛星への影響や撮像キャパシティへの影響はありますか。

A5 「GRUS-1E」は、2021年3月22日に打上げられた小型衛星です。2026年7月18日夜に姿勢制御の不具合が発生し、調査の結果、姿勢制御に使用するリアクションホイールの故障が確認されました。安定的なサービス運用の継続は困難であると判断し7月27日に同衛星の商用運用終了を発表しまし

た。

「GRUS-1」にはリアクションホイールを4機搭載しており、そのうち1機に故障が発生した場合でも運用を継続できる冗長性を確保していましたが、「GRUS-1E」では4機中2機に故障が発生したと考えられるテレメトリデータを確認いたしましたため、衛星の三軸姿勢制御の復旧は困難であると判断しました。

「GRUS-1E」を除く4機は正常に稼働し、画像データの提供を継続していることから、撮像キャパシティへの影響は軽微であると判断しています。

ご参考：当社開示資料

AxelGlobe事業の小型衛星「GRUS-1E」の商用運用終了のお知らせ

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/402A/tdnet/2856370/00.pdf>

2. 2026年5月期の業績、2027年5月期の業績予想に関するご質問

Q1 2027年5月期も連結では赤字予想となっています。黒字化の見通しについて教えてください。

A1 現時点では、黒字化の具体的な時期については公表しておりません。2027年5月期は、増収及び収益性の改善を計画しています。AxelLiner事業においても、Kプログラムの進行に加えて、AxelLiner Laboratoryのサービス提供により、売上の拡大を見込んでいます。また、AxelGlobe事業では、衛星コンステレーションの整備・運営等事業が通年で売上に寄与することに加えて、「GRUS-3」の商用運用開始により、新規顧客・既存顧客への営業活動を実施し、売上拡大につなげていく方針です。このように、両事業の成長を着実に進めることで、収益性の改善を図っていきます。

Q2 AxelLiner事業は売上高が増加しているにもかかわらず、2026年5月期に続き、2027年5月期も赤字を見込んでいるのはなぜですか。

A2 2027年5月期は、主力プロジェクトである「Kプログラム」及びAxelLiner Laboratoryのプロジェクト進行により売上高の増加を見込む一方、「次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術」に関する研究開発費の先行投資を予定しており研究開発費が増加する見込みです。「次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術」は宇宙戦略基金第二期に採択された研究開発案件であり、当プロジェクトで使用した研究開発の費用は翌期に補助金として支給される仕組みのため、2027年5月期に費用が先行する形となっています。

ご参考：当社開示資料

2026年5月期 通期決算補足説明資料 29ページ

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/402A/tdnet/2851663/00.pdf>



セグメント別業績予想:AxelLiner事業

2027年5月期はKプログラム及びAxelLiner Laboratoryのプロジェクトを進行



【業績予想の前提】

売上高

- ・ Kプログラムにて振動試験等に用いる地上での仕様検証用試作衛星(エンジニアリングモデル)ならびに実証機2機のフライトモデルを製造
- ・ Pale Blue社及びJAXAへのAxelLiner Laboratoryサービスの提供

セグメント利益又は損失*1

- ・ 上記案件の材料費/経費、人件費
- ・ 「次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術」の研究開発費の先行投資

*1: 報告セグメントの利益又は損失は、経常損失ベースです。

AXELSPACE 29

宇宙戦略基金 第二期「次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術」採択のお知らせ

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/402A/tdnet/2781863/00.pdf>

Q3 2027年5月期のAxelGlobe事業の売上高予想60.8億円は、防衛省の「衛星コンステレーションの整備・運営等事業」の案件のみで構成されているのでしょうか。

A3 防衛省の「衛星コンステレーションの整備・運営等事業」の売上高に加え、民間案件の売上高も一部含んだ計画となっています。宇宙ビジネスは事業特性上、不確実性を伴うことを踏まえ、売上高予想については一定の掛け目を乗じて算定しています。

ご参考：当社開示資料

2026年5月期 通期決算補足説明資料 30ページ

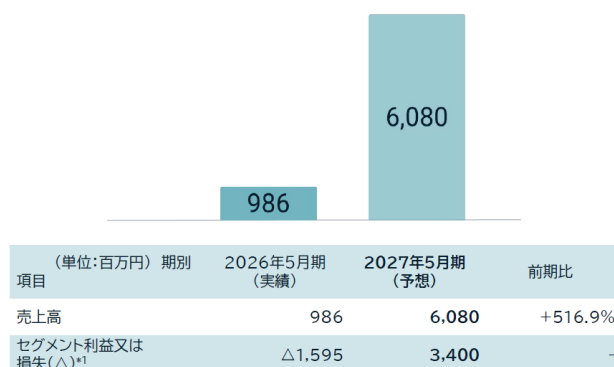
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/402A/tdnet/2851663/00.pdf>

Axelliner

AxelGlobe

セグメント別業績予想:AxelGlobe事業

2027年5月期は政府系案件の着実な遂行と、「GRUS-3」7機の商用運用の開始を計画



【業績予想の前提】

売上高

- 衛星コンステレーションの整備・運営等事業が通年で売上に寄与
- 「GRUS-3」7機の商用運用開始により、画像・サービスの購入に関する意向表明(LOI)を締結している顧客をはじめとする新規顧客・既存顧客への営業活動を実施

セグメント利益*1

- 衛星コンステレーションの整備・運営等事業の売上の増加に伴う利益の増加
- 売上高の増加に伴う売上総利益の増加及び補助金収入により、研究開発費(2028年5月期に打上げを予定の高分解能衛星3機、2029年5月期に打上げを予定の高分解能衛星2機)の負担を吸収

*1: 報告セグメントの利益又は損失は、経常損失ベースです。

AXELSPACE 30

Q4 2027年5月期の業績予想には、「GRUS-3」による売上高も見込んでいるのでしょうか。

A4 一定程度の売上高を見込んでいます。「GRUS-3」は2026年中の商用運用開始を目指しており、商用運用開始後は、国内外の意向表明書(注)の締結企業を中心に営業活動を進めていく予定です。

(注) 意向表明書(LOI: Letter of Intent)は、顧客の導入・購買に関する意向を確認することを目的とした合意文書であり、具体的な発注内容等を定めるものではありません。

ご参考：当社開示資料

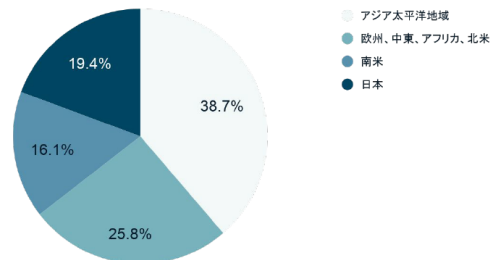
2026年5月期 通期決算補足説明資料 30、32ページ

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/402A/tdnet/2851663/00.pdf>

LOIの提出企業を中心に営業活動を実施

日本を含む国内外の**30社以上**と、GRUS-3の画像・サービスの購入に関する意向表明書(LOI)を締結
インフラ・地図のほか農業、環境関連の領域での活用にも関心が寄せられている

(2026年6月末時点、グラフはLOI締結企業数の所在地別比較)



LOI : Letter of Intent

GRUS-3 が商用利用可能になった場合に、画像・サービスの購入に関心があることに関する意向表明書

Q5 「GRUS-3」の減価償却費はいつから計上されるのでしょうか。

A5 自社衛星の減価償却費については、「GRUS-3」の商用運用開始後から計上する予定です。

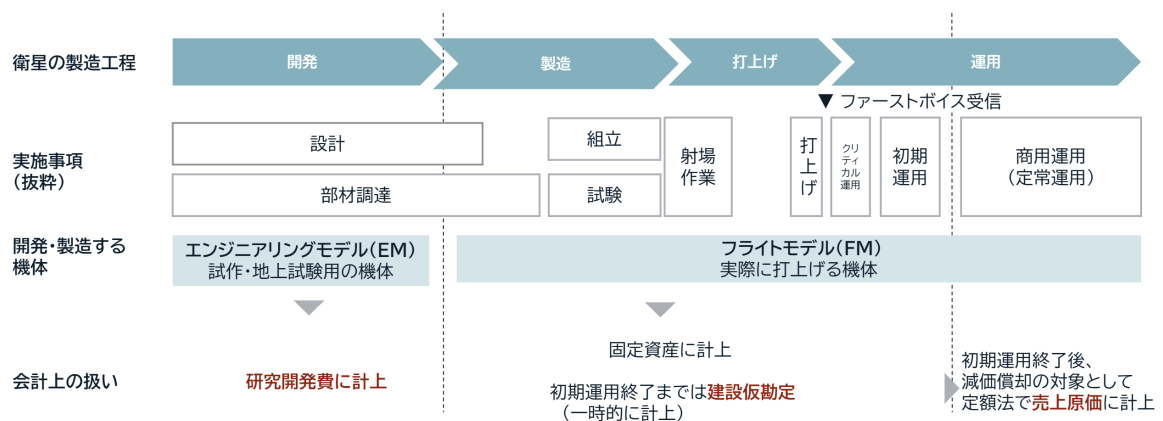
ご参考：当社開示資料

2026年5月期 通期決算補足説明資料 53ページ

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/402A/tdnet/2851663/00.pdf>

AxelGlobe事業：自社衛星の会計上の扱い

- 主にAxelGlobe事業に供する自社衛星は開発から運用のフェーズ進捗に応じて計上方法が変化
- 試作・地上試験用の機体の製造時は研究開発費として費用計上
- 打上げ機体の製造時は建設仮勘定として資産化の後、初期運用終了後に減価償却の対象となる



【ご参考】

2026年5月期 通期決算説明会および決算発表後に公開された当社関連情報について、下記のとおりご案内いたします。

決算説明会 書き起こし

2026年5月期 通期決算説明会 ご説明及び質疑応答

ログミーFinance「アクセルスペースHD、AxelGlobe通期売上高は前期比6倍超の60.8億円予想 「GRUS-3」7機同時打上げ成功」(2026年7月29日付公表)

<https://finance.logmi.jp/articles/385316#s27>

当社noteの公開記事（抜粋）



事業関連	
Space within Your Reach ― 私たちの現在地と、その先の10年 (2026年6月1日付公表)	https://note.com/axelspace/n/na567550b58e7
環境分野に広がるデータ利用 次世代地球観測衛星GRUS-3への市場の期待 (2026年6月15日付公表)	https://note.com/axelspace/n/n333cle21663c
次世代地球観測衛星GRUS-3射場作業 現地レポート【前編】 (2026年7月3日付公表)	https://note.com/axelspace/n/ne12fb6bb4eeb
次世代地球観測衛星GRUS-3射場作業 現地レポート【後編】 (2026年7月6日付公表)	https://note.com/axelspace/n/n364efef419ca
次世代地球観測衛星GRUS-3を支える技術 姿勢制御とは (2026年7月16日付公表)	https://note.com/axelspace/n/n9e53e3d4d40a
IR関連（マガジン： https://note.com/axelspace/m/m7f372ae606c8 ）	
AxelGlobe事業の収益認識基準について (2026年6月11日付公表)	https://note.com/axelspace/n/n3125d9728ce1
AxelLiner事業の収益認識基準について (2026年6月18日付公表)	https://note.com/axelspace/n/nfb9a0dcaccde

株式会社エンヴァリス アナリスト・レポート（注）

企業情報 : https://envalith.com/ja/companies/402A	
アクセルスペースホールディングス 通期 決算速報（2026年 7 月29日付公開）	https://envalith.com/ja/companies/402A/reports/019fad41-7329-7b92-9b13-3f6f460ff937
アクセルスペースホールディングス 通期 決算説明会速報（2026年 7 月29日付公開）	https://envalith.com/ja/companies/402A/reports/019fad42-f919-7c65-9f26-ba013ba08d64
アクセルスペースホールディングス 経営陣の視点（2026年 8 月12日付公開）	https://envalith.com/ja/companies/402A/management-voice

（注）本レポートは、当社の依頼に基づき作成されたものですが、短期的な業績分析にとどまらず、当社の中長期的な企業価値向上に向けた取り組みや成長性について、投資家の皆様により深くご理解いただくことを目的として、エンヴァリスの独立した立場から、客観的かつ中立的な調査・分析が行われております。当社は、本レポートが当社の成長ストーリーや市場環境に対する多角的な視点を提供し、投資判断の一助となることを期待しております。

以 上